元隙随覽

全

みつのながめ

定師白符は
[illegible]の業を[illegible]し時
我山[illegible]の業
[illegible]を示もまし

かゝ〜う七世
其日庵
列山

いものみを竹ぢ子
同古内の茅舎

青陽

のどかなる初日の雲の弓矢あり　蔭川

具足鏡の春あり　輝

年男義仁とかとかとかく　列山

皇阿

春興

松ばかりなる

けさの春の春の

歳暮

雑煮や市の

もちのあるの弓　おかめ

春興

咲ほこるうらうらの白〜梅の花　有友

墨堤

井ふちの苔咲くめりやとゝ豊　丶

還暦の春を迎て

花のまち童子おしたてゝ　大苗

凍解るとゝ姫まち牧り　列山

きとのたちみ金國の毎に吉帰山て　素国

春景

雪はまだ帰りもあへぬ新ほうき

歳末

はくまで門をもちたのふけぶり

線歩

改元

春初の鶏も羽をのべ時を

仮名とも書ぬ屠蘇の杯

見事なる紅白の梅持ち

みどりご　黒山

列山

無物

春景

うゝて狐の捧ゝ梅子を抜ル　一名　亮朝

歳暮

急き出ぬ年越を洗ふ毋

詔光

ゝなる松年を拾ふ毋福ぞ中

鄙ひなる雪せくまちの朝起　凍風　松谷

鞠ゝ長閑ゝ駒の嘶ゝ　列山　楚郷

春興

[illegible]

終年

[illegible]

元旦

[illegible]

春興

[illegible]

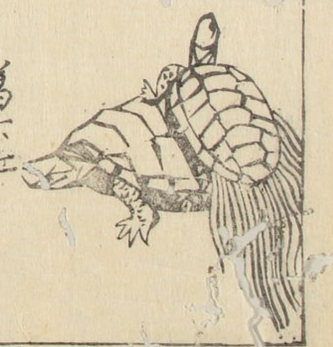
歳末

[illegible]

首春

ちらつかぬ新らはつ日をまゝ興
春半
ゝゝ酒混沌とゝて白髪
行年
舌ゝゝぬ雪とゝも法ゝ市

、　、　、



葛一二
一池庵　其玉

鳳暦

初春代ゝの平和ゝ鶴ゝ
陽中
ゝゝゝ新乃ゝゝ碎人
臘除
蓬ゝ拾ゝ樓見ゝ年之

、　、　、

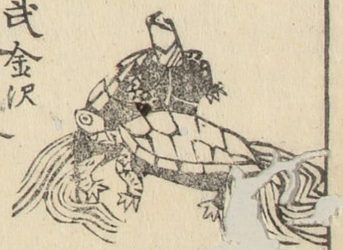
武和伏
近月庵　菖水

東帝

春色

歳終

武金沢
皎月庵
万岳



青律

陽中

歳暮

仝
天地著
里扇

鶏旦

堤めぐりの清を見る

春中

やうやうの花乃時しる

歳晩

年は影の流れ動く

仝湛堂 桃江

青陽

梅ふくみ清めるる日

春景

咲く七草供物

訥年

年の梅翁人は冨

和庵 百雄

年始

[illegible]

如月

[illegible]芽種芽紙む播の外

除月

年木[illegible]

竹窓舎 故山

上陽

汲[illegible]

中和

[illegible]芹薺

終年

[illegible]心[illegible]

菊亭 長春

蒼天

海辺の[illegible]やうきのまち　心

春和

梅のひらく春

調年

[illegible]の市戸

梅日翁
好来

詔光

[illegible]

中和

梅ちる戸ふるきのあるじ

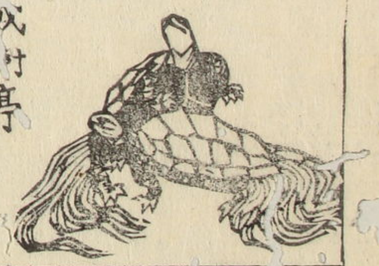
亀泉亭
文雪

東君

春半

守歳

成村亭　君橋



歳首

春奥　春暁亭　白笑

手尾

改暦

元日のもちつくかねも吉兆　遠中野町 三鱗齋 十二歳 李龍

中和

信せんとよ義をまもる川音哉　〃

晩冬

燈挑や老もまもる仏持　〃

句順到来記

四十海をひつつ迎めるさく

武大川戸連

春たつ樂〻破ぶるの春　鼠夕

ゆくさきの如　微笑積て春は来る

拭ふ〻心のまゝ也と〻乃図　〃

和泉がたの捻油の不二の雪　白儿
梅ぼやの泡のうきたる石　〃
俳諧のうたとまとまるは筆の筆　〃
元日はさうさう嵯峨の倡生　白濤
下萌や小橋にうし拵の莊　〃
餅搗や臼のうしろに玉兎　〃
屠蘇の雪や掛の親子梅の花　素旬
うぐひすあるいて抽と江戸まで　〃
ぶんまきぬはるをかすめの四　〃

注連縄にうるさく惜と農具小
うち掛るもうるさはるめん梅ぼうし　野月庵　浮石
蜘蛛の巣の網の目の山の湯田川　〃
元日や鶴の巣ぶりの常なる　武赤岩　底柱
はつはるの稽古の董鞭草　〃
蜘蛛の巣の見ぬ間の人の手拍　〃
牧根ぶり磨き立て直しうるの花　月　圃趨
世斗七重当言しうる玉の夫　〃
うのやの浮上る仏の鼾　〃

塀うしの這ひ狂りし
日の出の映えそめて
這ひ狂ふ朝日躇躇風情哉　一甫齊　蘭戸
武義なる陣ゝ立の杉崎　〃
手忘恵ゝ　梅も笑ひけり　〃

頌

弱井与清んそつ男
梅ゝ寿の神　馬いそく花見客
ゆるゝ世の寶　かまくら武市　〃
けつまる門ゝ　鉢ふまり唄　〃　琴松
若葉ゆる郷ゝ　ゆまき玄手の雪　〃
勇ゝ世窟覺に　ゆゝ世ゝ
如潟ゝ代のかゝし　世ゝ言ゝ世
ゝゝゝ梅ゝひゝ　玉巻齊　文史

附賢とそくも見せて年籠

頌

年のくれ世の里回風ふくのを　花月庵連　會頭　花草庵　清之

仏者世和を聞ふぬ帆掛舟

蛙しるあるとあつまる蓬舟　櫻月庵　蝶

元日や鳴物菓子見る家の内

為山世羽　喜と面みて

木の菓子蔵ふくろ口はもの　山曉亭　亀采

元日ハ雑ふのを家乃ふち

湧水ゆ日のあるくりたく梅の蕚

なるみつるいふぬ人ふ除夜詣　阿波　紫徳庵　李橋

元日世雀ハいつも跡世多

長寿ふそ是ふ雪ふ雪の月ゆ

是ふ多ゆの家ゆ海ふ世戸口ゆ

ふつふ世ふ世ふ世ふ裾ゆ松ふもと　柳亭庵　烏

蓬戸も為ふふふふいわつ柳

ふ別の口髭梅ふく年の坂

松井と世ふふ知て筆始

全

三正

行先の夜を隣に初鮭　一秀軒 遠来
葺かへしに向ふ見えぬく蝶拂ひ　、
初春や朝日に梅はあらはるゝ　小名木川 杉松亭 吾溪
杉洗ひし雲に小原の黒木出　、
集の市梅ハ静かに見ておけり　阿加 積雪庵 一口
はつかりに心はいよかなるのまと　、
さのえうらぬ其の猫風に匂ひける　、
霜踏て大根引手の暮　、
宮城の産形見多かに紛れも　、

吹おろし麦の葉踏な梅の花　、
蝶の日や老杖に多めり　仝 梅枝女
年玉や如くに沁しの乗さえ　、
ふところに生まれし咲かおる桜　、
とりのあゆみ静かに小盃　小名木川 東志
まゝにいくしもあるてそうる　、
もの哀いかゝや枕に眠るとき　、
酒ともれ此は何ふまでも身の事　カチハシ 吾醉
えとかりしよる相撲取　、

、野ゟ川を實は〓〓しき梅枝

、としの実犬百姓の於奈〓

鉄炮洲 化石

、多田みれまいさ由まう評新

、雑子の声や肥然として小松山

、かしてゐる気しゅくし年の暮

初雪やまた京に来る露の葉かな

、菜種も錦のすゝしき吉書初

カチハシ 牡丹庵 南時

、麁物雀ともつしひく若菜摘

、起てしまとまむく露の歩行ふ

○

おとけく〓〓〓えれなしまの風

花月菴 旦雪

頌

下毛越名連

神代より曳續くるの浄き膳

、識る納の小〓〓いろ〓記

細干亭 湖岳

、年始市〓〓〓京名ハ〓〓宅

、かくなあれるゝや〓松の色

遠山亭 津柳

、青柳や〓〓集の五丸箱

、ゆくとしの梅乃〓〓〓〓

旦暮

波うぬ硯の海や苔むす

梅

ゝゝゝゝ梅

ゝの関越えるもかな

駿芙蓉峰一ツ連

上野
一樂坊
素人

三節

黄金のひゝの寒ゝ

柳

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝ

十五夜鶴の玉ゝ

年竹養

駿芙蓉峰一ツ連

星山
五勇

芙蓉峰ふ向ひて行く

松かとも不二に八ふ[illegible]

芭蕉の天神ふ行るる[illegible]

除夜とても[illegible]

梅の蕾ひら

駿芙蓉峰之連

内房 方圓舎 山来

元日ひく扇やとの不二

駿上野 玉児

[illegible]の清[illegible]

[illegible]

豊さやとの太[illegible]

[illegible]

仝 五水

反古撰ふ我も[illegible]年の暮

花の香を[illegible]

[illegible]梅 行[illegible]

呉竹園 山呼

[illegible]の答より四十の[illegible]れる
[illegible]行と賞し　梅の枝砂[illegible]
[illegible]さの[illegible]　蓉や年[illegible]
心[illegible]く[illegible]やう[illegible]
[illegible]　葉の操[illegible]
来廣[illegible]し年[illegible]要[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

養老井　玉水
〃　芦鄙
〃　加[illegible]
〃

行[illegible]の[illegible]門の[illegible]
[illegible]　[illegible]門[illegible]
旧賞[illegible]
君[illegible]
[illegible]の[illegible]を[illegible]
除[illegible]梅[illegible]人の患[illegible]

〃　素石
〃
〃
〃　花曉
〃
〃

石[illegible]　梅[illegible]
客[illegible]

〃　梅眠

春さめ
鶯の色
海棠の一つ咲の香
神園の梅
見せ顔ら
麗山

梅うるはし
梢を移ぬ日和かな　寥故

春の戸ぬひ
初ゆり雪乃糸　杜橋

梅や梅
春の果　太柳

年のくるる分みさへ嬉しきに
をしらしの身を顧る町の宴
格式は具足の鏡ひしゝと
光目出たの節つゝと目出度
いとゝ〳〵まさの走りの業拙
蓮華の栞酒の泉の和
碎〳〵し梅の咲て付まゝ
花も鳥も酒も楽しく手忘

三人の孫疱瘡怪く金目出度きを祝して

仝 芝徳
仝 笠ゝ
仝 東遂
仝 岩渕望月窟 其丸
仝 聽松庵 松渓
〃
〃

咲揚る傘新の家出花の春
遊〳〵の暮も高砂〳〵
弥寿を忘れ
弥生の桜や
新いろは月おく
ゝつゝ梅の月
塵もなき紀元
ゝ更ゝ春
ほの漂ふ梅の薫り
四方の桟敷の賑ふ手度

仝 常盤亭 素耕
〃
仝 可雄
〃
〃
仝 李渓
〃
〃

[illegible]の[illegible]ちく初日の出　仝　素平
ひすがるる門の白しめ
[illegible]搗の已ちと咳一ツ鏡　〃
[illegible]坊も男ら小服[illegible]　仝　艶之
[illegible]の[illegible]の野附
[illegible]歳と[illegible]豆囃子　〃
[illegible]ちよいん　仝　圭堂　麟之
[illegible]心あ[illegible]ば[illegible]梅[illegible]　仝　白圓
ちと[illegible]毎[illegible]名言[illegible]福寿冊　仝　素白

[illegible]四方の[illegible]　仝　いさ
[illegible]梅の[illegible]書[illegible]　仝　少年　素石
[illegible]の中[illegible]　仝　仙平
梅[illegible]蔭[illegible]紫屋女　仝　雅光
[illegible]連[illegible]　仝　少年　百雀
[illegible]梅の[illegible]　仝　渋茶
穂[illegible]　仝　里麦
[illegible]陽の二進り一ツ蔭屋　仝　梅里
[illegible]の[illegible]　仝　也童

三節

快くもつ
寄さやうの宝
寄ものも
もらはれあるみ
豊かなる
ものかな

仝 安居山 左城
〃
〃

御ものの種いとまの勝手
形しをもの保をの枝くの枝
旅人も道の命の路上の

仝 俳石亭 松風
〃
〃

○

初春七草の図 好竜
柳もの芽 芽ものの芽
芽ものの月もの初
沖木のもの枝

聽小説 素挑
雪花亭 梅市
〃

もの井窗 素因

自高のあるかの高やち屑　　、

四十の年をかさねて

ちるのいろ　ゆやみくまの桜　　雅花園　朶雲

山をもてるゆやのとるの手枝　　、

伊勢の人敵と橘士のいろを
知れる年へ入まをとる

不二川の流をきき　恨らまをとも　　老茶園　不千

頌

吉野やひとるよ雪のみの浮　　白雲舎　嵐車

山ゆこうしてあらはし　的　　、

長病漸く快をまして
あるなりけるを送る　　武大塲連

ちるの起るの色をは　　三風舎　起笑

志やちの奥はるをとを紅

小はた嶋ちるもを　　、

義　私大はいの國を　　、

神儒佛の題して

神儒や一枝みぐるの花の

詩をとをも　無やちるの高　　全　良山

鬼とはの又ちの事とを拙をも　　、

安は豊饒にして長し門蔭
春草黄　池穂
の枝も弾屋はさもぬ松かな　〃
年は夜は和の弾てもらも　〃
日月星の新しき
中野一檀舎　樂山
面白頭をもえへらるる
叫もれもれも出もれまの目　〃
出辰をを分限穀ちまを除ぬ星　〃
頌　十樂
面白の淋しさ物なかるる

頌　葛一、江連　里曉堂　花雪
金銀の雪、照り輝く初日の出
玄前の寶市の掛け取　〃
乳の恩を育む州木やもの面　〃
長生の井戸を汲む初姻　〃　栄壽
松の緑の立日ふかし　〃
山の栄あるまを孫ら年の豆　〃
元日の歌まを歌ひ　イシキ　梅枝
沐浴の松の長日の日向椽　〃

くるの名を義すく沙走ら
加けおくるこのあら割り寄
鶏の来て繁り生ら蔦の葉
、
ち揺や海ち澤ち筒井筒
ち魚や雪の鱈て滑ら
ち萌や地剣尾の うけ蓮
杜風の力待ち下や土筆摘
鶯やきの八百舌よだれ
、
寅のとれ八繁て

ナイト 岩月改 晴素庵 葛海
、
八十 暮堂 南枝
、
一ノ江 一池
、

月招館 東玉
、
、
雪庭軒 翠之
、
、

鳳の尾や素ち生きうめ
ち俳や屋ち八ち毎
年ち屋八拾ち師走の日 和答
ひち柳ち清ち物ち屋
師走ち清ち山家の糸束

鶏

下總国分連 於草瓢舎 東水
事の生ち元八言物ち事物
ち屋ち山や春酒ち
物ち清ち手物世ち色

書好き素さ世たたる雷　里栢
ゆゆしき事ども共多弱代水の世界　〃
たたりを知る天之大なる　〃
玉也豊玉事代主神　一芦
窟心也面行山田　〃
餘物遠き自然田毎の　〃
屋子自然と山も世界の初　柳夢
物語り嬉しき稲田の風　〃
我もくし人も豊玉の雷　〃

年毎に拝を稲荷神
日ゝ月ゝ月の縁
いとゝ大嬉
松尾の風流
志賀の根芹
折しも夏の時
門〳〵の松常盤
梅咲て鶯も
長風の暮て

一両　〃　〃　文雲　〃　〃　鳳翼　〃

○

[illegible]猫の戀　巫雪菴　雪知

中高く小竹流れし川　〃

皆のうゝ下日[illegible]　松の盛り　〃

頃

元日や藪鶯の　國栖乃笛　楚流

[illegible]梅[illegible]　〃

目[illegible]の菓子の麈[illegible]羊の門　〃

海原[illegible]初日出　赤達

松の[illegible]上八月[illegible]

[illegible]　〃

蓬萊や折[illegible]高なる[illegible]家　里松

[illegible]　〃

[illegible]豊の[illegible]　〃

[illegible]の[illegible]麈[illegible]　需光

戀猫や小[illegible]　〃

[illegible]師走[illegible]

[illegible]や[illegible]　苔卿

老ころ山かさし新暦
馬しき神の縁ちるや徐抄詠
天地の一園照して初日の出
蓬や世を経なから梅の花
孫先人と趣も人もなし年の関
こし六十余の春を迎えて喜ひある
あらたまを待のく
其の詩趣れもむの道廣し
学環の甘えされぬ正月
神松もかしこくて栄まて手終

盛衛館
、、、化[illegible]

盛衛亭
、、、味曉

頌

思ふ郎か居を終りて
家父の明つきも白り作りて
ふともうる有りかきり
若くて舞や初ゆのめくみより
うちかすむ日のゆたかさや春の海
かけそへる君の徳や手廣
静さの世界ふうちて初日の出
ちるの月神山の手木澗しぬ
心から撰く見る徐抄の量

梅園
、、、古東

如梅庵
、、、素光

はるの物の
ものゝ哀みなり

武羽生吉
文鳴

歳旦

ものの哀れをしれとなり　仝　百財

春興

ちる梅のあとのくもなるものを　〃

歳尾

ゆくぶるの越ちゝとなる　〃

先陽自竹先生の
號を
つきのひと
かゝるる

梅檀の

二葉より
うつゝ芹

實直庵
五竹

頌

甲四阿屋連

人日や[illegible]の[illegible]
[illegible]や芦[illegible]漕り渡る小舟　習之

那朝[illegible]の[illegible]の[illegible]　一甫

うぐひすの[illegible]を生[illegible]　、

新[illegible]を[illegible]の[illegible]の[illegible]　壽丞

[illegible]雨の[illegible]田別島　小石和　壽得

我[illegible]を[illegible]の[illegible]汐干潟　、

松風ハ[illegible]て仕舞[illegible]猶月　仝　児鹿

梅臭ひ[illegible]の[illegible]日和[illegible]　、

[illegible]の[illegible]猶ほ祭りの小魚ゆ　河内　陶子

青[illegible]紀田毎のれれぬ[illegible]ゆ　、

[illegible]を[illegible]窪し[illegible]　道尾

川舟[illegible]の蛙[illegible]　、

○

顧一年怠者

[illegible]や[illegible]の[illegible]　四阿屋　[illegible]屋

[illegible]

頌

八総も形ゝにさく花の春　　上總 寧上連 寧楽園 耕月

筆の中年しらぬ八峰もかゝり

まだ惜しき句ひを松の明るかな　　佳朝庵 子侯

大勢の中にもまた清香かな

香もこのむ方よりまつ春ならむ　　招月庵 芦白

見るからや来はる錦門のまゝの梅

え出る寅嘯てまた色よせ

雪ともみえて後も出もの傀儡師

年の梅また経に風やさる丹青え　　菖窓

松の戸や初音のこゑの寒白ふ

梅咲く花く菜を摘むまゝ女かな

木の花に悩みあらそふ師走人

梅が枝かゝる初日の香かな　　七十叟 鉅鹿

事きるの陽はけしきめく気を
あらたにしてまたく迎ふ法国を
よろこひもつく業とは故より
ある菴白斧者師より申せ齋の
見えぬる人

又新やよしの趣して年禮

○

梅さくはるかの雲の端
なれるの貫ひらけかな

連綿会所を嗣ぐ

世をかさね年梅さくの勢俳諧の座

頌

えらび来禊ましき國はなし

小舟町　知足

四方の東さかりの山
ものこころの梅さくの田舎の春

会頭　環麓堂　野梅

春の色松へ在くやさくの春
名世を遠い野の情子
年は梅梅さく清子

天下一

信州養　宗阿

、
、

蓬を焚て
鄭さくの南は梅の花
乗をしてひく人言さく年の梅

上総ケ林　和水

、
、

時さくは寅伏さくの春
鳴さくは鶯伏ほおさくて
去れる年の名残を梅さく定

常州小宿　白圳

、
、

頌

房址極連

日の本ハ東こそ春の初穂哉　大崩　化交

こまゆゑをこそ春ひらけ初霞　仝　[illegible]

初芝原幾年ぞとも太郎兵衛　三顧亭　存吾

嶽の深雪新しく雲ぶかし　〃

喰新まま義平ぶり　〃

四方ぶり春こんぬの人新ぶり　仝　秀外

ちられ小笠ゆみ　〃

樫の葉ぶり懐紙　〃

久堅や五合の風もあれぬる　隨小舎　黒坑

ゆるまるに柳ちらし太郎ぶり　〃

年越ぶりこれぶり　〃

見おろしの海ぶり初日ぶり　平ワカ　烏朝

神鏡の曇ぶり梅乃月ぶり　〃

[illegible]　〃

人の心明のぶり方へ玉の春　茶舎連　馬倫

[illegible]　仝　逸東

○

門松や爲赤ゝ三番叟　一練宮　貫風

雪待のいつくれぬ年八ヶ岳　一名　星守

樵谷上師走を退かぬ

頌

春を待ゝ未廣うれし扇子　挑菓菴社中

碎ける毎に空しき梅　林菓庵　雪羽

一類の逃雛の声の蔵の中　有慶舎　萬舞

爲帽子著て新しき初日哉

物の跑ゝ

紙屋住ゝ貧金は埋もれの市　花菖坊　甚山

なほ白ふ日の稲の刈ゝ

拂ゝ渡ゝ一番雁

ゝの関ゝ越ゝ古筆狐　茅柳亭　辰之

碧ゝぬを家の菓ゝ

爲桂爲賣は爲ふ

穂當ゝ師走ゝ

四海波静ゝ清歌　蘆乗庵

枯ゝ少ゝ

いろ〳〵と越ゆるものなし乃峯
行年の海こそや年のこゝろかな
鶯のはつねもやく柴戸かな
日も路深し年の市
初夢の門〳〵めぐる寳舩
[illegible]袖や袖のしき[illegible]の露
[illegible]袖や心ゆかしき[illegible]の松
[illegible]家の年起しと旭かな
[illegible]つるやはり不二の朝

、蔓々庵 茱重
、
、盧々庵 女好
、
、芳笑庵 花山
、

[illegible]る年や[illegible]の[illegible]
荒海を豊年登るまつり
[illegible]も[illegible]る人[illegible]ぬ[illegible]かな
除夜の[illegible]やてまちかねかな
今朝のを経よみぬ[illegible]かな
もて[illegible]なるかな[illegible]
浮世乃幅ある年越街かな

、阿香庵 桂露
、
、錦仁舎 蓁蜘
、
、

頌

木のしたまちんら居 籟の碑

尊亭 葦連
木挽丁 [illegible]

梅一輪咲かゝる夜朧かな　、

さま見ゝ居ても柳に傍きかな　、

倚のちさき世とぬれて初日の出　中もし　素竺

また梅や去年の袖乃匂ひけし　、

粉情の只ひら〳〵降る落花かな　本挽丁　酔霞

去ぬや早乙女掃る釈し哉

まの卯や卯花の葉をきよと越ひけり　、

蝶帰や盥に月の影涼し　、

祥りかめ初りめて恵方かな　仝　哥国

切も布子小川を越る童かな　、

ゆくやしみて見るのたる新町　、

先み秋の宿のおりれ雑煮着　仝　萬国

烟根あちかつ霧の藪あらわ　、

よしの鹿鳴らせてつゝ辭の杵　、

つれ松の菊水枕せし新丁　久保丁　素凸

露消る挟そよく眠る柳かな　、

ころ子る　柳かえ有り年の暮　、

え影や濁らぬ清代の筒井筒　仝　笑水

梅ゝやはたるの皇ゝ通しゝめ　〃

[illegible]　〃

親もあるゝ[illegible]　一渕

[illegible]の梅　〃

[illegible]日[illegible]　〃

[illegible]の雀　石府

〃

〃

年暮ゝ孫やまゝめて富士の山　湖流

書始ゝ物の新をゝらゝまし

木枯丁
松翠亭

枯せゝ掃ゝ掃ゝ[illegible]の月　〃

[illegible]の[illegible]の海棠八　〃

[illegible]我[illegible]　松巴

[illegible]　〃

[illegible]月[illegible]　〃

[illegible]　先兆

川[illegible]　〃

[illegible]　〃

年[illegible]西[illegible]春　松長

秋月の雲ふるまやの漁火　〃

罪見たる方やちのくるまの雲　〃

かすみ鋪や安くと合ゝし雪の白す　〃　麦丁　勝月菴　淇水

もゝ姿京くと駕籠を引ぜ兎　〃

ゆゝしくと雁の来れば嫁入ふ　〃

○

月とも花とえらぶこゝろ　あゆ尾　素國

人知て新くゝめやもの月　〃

もの彼女男ふ仏のゝ　〃

春興歌仙

武大川戸連

成雪しゝ山ふもあるて雪霜ふ　藍水

雉子ふ鶏鳴ふ朝風　蘭戸

烏ゝぬ稽古の鼓ふふみて　底柱

長押ゝ番を張ゝ歪なり　松園

月掛ゝ瀑ふふ　鼠夕

ふも望ゝふ謡ゝ松ゝ枝　水

神馬さゝゝ人庶[illegible]
夢は奢を[illegible]
諸釈も五十余り八幡
記る國[illegible]四手は田長を
月の[illegible]杖曳淀志橋の上
猪[illegible]額は[illegible]書き[illegible]
金屏を[illegible]藤の筆走
見物一説の[illegible]

戸底園夕小戸底園

小丁稚ら[illegible]毎をかづけの木偶四
柱を[illegible]鶏の[illegible]
峯は[illegible]
四方[illegible]
[illegible]は仏の仲間[illegible]
[illegible]姻[illegible]
[illegible]稱[illegible]
[illegible]親[illegible]

夕水戸底園夕水戸

特雪を重ね関も近増り
疝氣は時の癖に歯痒き
勝間の海苔にて山水討
粉をまぶす皆潜こんこう
時々考を自慢のまと洗ひ
毛節にして云し中汲
庚申の夜自ら鳴る合
せる紙入る帳る枕草なし

底園夕水戸底園夕

毫を永く茶は具と革の袋より
扇の風をまる冥乃横平
七ツ筋狩をしる後音の
出るを見まる織色は猿
家は産を語ふん乃れ扇
る代乃をもしまをまる引鶴

各一順

小戸底園不千執筆

春興

葛菴連

[illegible] 藤蘿

梅の蕾[illegible] 四阿 筆深人 素節

[illegible] 芦川

[illegible] 三歳

川添や梅[illegible] 雪賀

[illegible] 泉志

[illegible] 一意

夕霧汁の穴[illegible] 里常

[illegible] 茂柳

[illegible]

[illegible] 山の[illegible]

野畑や赤[illegible]の[illegible] 歩い

江戸雪門 江戸 對岳

[illegible]

[illegible] 加[illegible]

須

門杉や中さと
[illegible]もの[illegible]
はるの風

望池樓　孤螢

宋の溪　戈義市

当舟木の[illegible]
[illegible]

文房

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

可石菴　鶯谷

[illegible]

一棠舎　冨孫

春風や馬迎まて松の青みかな

望陀櫛橘社中
蓋中堂 文賀

笹鶏の工風しつくす春

晴雪堂 白融

春興

こしらへやほとも頼みし日和山

ちるともあぬ猶なをし春の水

葛飾小松川
尊齋 巣鳩

吹雪の
もとてまつる
うゑれ
うちひらき

亀井街
酒人

まき無
うゝかほを
頬
うゝ日和
つゝ
つゝ
つゝ
まのわ

吾小松川
李齋
巣鳩

吹屋の
ちてまる
うえれ
ちかひら

亀井街
酒人

陽ち
ちかい
ちるめ
梅

小傳馬丁
嘉月

夕雪堂
素旦

漢風堂
楚十

筑後
賜紫沙門
慈堂

三節

五味堂
桂洲

春興

花やこの月抄
まち鳥や春の雲
ぬるみ(?)ゝる雲
柳ふく風
ゝめおりるる
はるる雨や
野のと切る桜の音

奥邑軒
先故

春興歌僊　一座

春の水幼音躊躇流るゝ
梅も清らに白し　曙
赤欄は古風麗に侍ふ人
鶯も鳴けり　客ハ折し
山の端の月は夏を馬にて
真葛をとりまゝ春の淋し

列山
先故
百雉
故山
大岳
右橋

秋のあはれし獨活鑓そ村揺 茱山

せまく淀みの水の杉の茎 素旦

こゝさ御飯も汲ハやりものえらんとも 五竹

涼しさもすゝつぶやき某碗に 楚十

業ともえ七度ちらし身の恋あき 孤螢

暑き夢れ今ぬむしろ氷せる 文房

文科のさらしあかせて月さゝる 其玉

町のしもゝれ菊ぬれかる 文賀

神ある事別れ哉ゆ縁組 白巓

待まゐらする寄の師をまる 松苔

和歌読よ誰よ洗らるを明殺し 楚郷

あゝのこゝろ松のちら深る 白英

左遷乃流されこゝろあなたる 鶯谷

育つる法けく慧き盲子 雨曉

一目の履碁をまゐく悔しき 秀琴

露戸明れぬく横わゆるや 桂洲

そうつ色の心あるかの人の美しさよ性利とて
海和尚駿集して競べ馬　白蓼
名綿ハ低く峰にまぎれ　冨孫
尾軽よ浦世をうる拾遺者　巣鳩
仏とうしろ信て質を　白翁
永き夜をかけて入る秋月　文雪
鴨の羽擊ハいつ淋しよ　雲知
　　素國
　　鼠夕

接ぐ小豆長光冷る
さもとよ寺の信り家姫　恕来
傳ぐ手ハ初ハ拾遺　宗阿
笹うい色ぐ角奥乃まく　南枝
白水を長ぐ手しの花ぐ　南李
長閑なる立言ハ巣の去　篁阿
　　執筆

全一順

春興

宗瑞

岸の柳は清きき川や梅の花

普門

梅は咲しいろ梅の花乃香

東溟

うぐいすの車うつるの柳の

鳳来

長閑なるつゝ長閑野辺の梅白ふ

東園

作句〳〵馬のくつわ柳かな

雪松

春〳〵や〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵

百花

陽春や鶯の泊毛ふ吹〳〵

廣傳

〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵柳の葉

遠門〳〵陳ふ指ふて野面小

宗宇

茅屋附ふ〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵

一叟

春柳や滝の四〳〵〳〵〳〵〳〵

魚山

晴天や稲穂之ほの内ふ〳〵

柳門

○

茅石

雪ふ投分ふ〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵

桃舎

〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵の山

月雪

〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵

山奴

〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵〳〵の方

[illegible]こと初音八信濃ち　三化
松明のりて連吉[illegible]の月　恩明
[illegible]松[illegible]信濃積古し　夫雪
[illegible]の[illegible]や[illegible]の[illegible]　白逸
[illegible]池[illegible]の[illegible]や梅[illegible]　東之
[illegible]の樹[illegible]蕨の[illegible]　梅瑞
[illegible]よ[illegible]の[illegible]里[illegible]梅[illegible]　梅明

○

[illegible]の[illegible]の[illegible]ぬ田[illegible]　對山

[illegible]秋を[illegible]も忘[illegible]　明[illegible]
[illegible]　宜雲
[illegible]毎[illegible]　寒松
[illegible]の[illegible]の[illegible]　夷門
[illegible]の[illegible]　苔雅
[illegible]の[illegible]　方雲
[illegible]の[illegible]　此[illegible]
[illegible]を[illegible]　[illegible]石
[illegible]人の[illegible]の[illegible]　北元
[illegible]の[illegible]　旦小

[illegible]

太阿

黒鴉

○

[illegible]

相模

国府

高阜

○

白梅の[illegible]

万里

梅第

[illegible]

且

民玉

寒渓

里尾

和玉

森山

茶賀

陸奥

十七の月さしてはるかに遥と遥

二月十人の子数の野の鶯

子の梅高く咲て明少帖ル　仙弧

明方や明れ荒る夫の撥　書仁

孫きりの海とおもふ明撥　時袋

○　葛門老俳　栖息

石州やうらうしと冨く牛　左藁

まめいく寒さを蒸て帆ゝみ　賞風

牛のるは雪ゆゑ小ゝ　素来

　　野梅

とゝ梅のおの人なきものゝ　百村

梅咲ゝ高根ゆゑ　百雑

ゝゝいすゝ芹稀茅ぬむ垣のゝ　故山

中高ゝ小の傍ゝ長川　雪知

二苔や地割屋のゝみむろ　南枝

志ゝ刺の奥ゝ重ル　起笑

永ゝ山の猟ゝ稀ゝ　鼠夕

ゝゝゝゝ稀ら　底柱

ゝのゝ豊ゝ　松園

[illegible]梅や[illegible]紙素の[illegible]竹笠　律柳

[illegible]　三和

梅[illegible]世[illegible]　素人

[illegible]梅[illegible]　山夕

[illegible]　山吟

[illegible]　花暁

[illegible]　梅眠

[illegible]て画[illegible]　其九

本丁　是の梅や　縣乃目[illegible]

葛門執筆

シテ紹の[illegible]　梅[illegible]自然[illegible]　葉山

[illegible]梅[illegible]　素且

祝[illegible]　女禮　白蘚

[illegible]の月野山乃[illegible]　素光

[illegible]　梅く山[illegible]　白鵬

江[illegible]　[illegible]　右掃

[illegible]葉[illegible]伸[illegible]　文房

梅武[illegible]　[illegible]　鶯笘

[illegible]梅[illegible]　冥弦

いさゝかの白梅のしらしやまぬ哉　兮故

呂句門人一列他邦

先生さらるゝことしはしの年の暮　文龍

蘂に粉る梅見ることやとけし心　蕗水

春寿ある田上鶯ふや蓀川　素桃

鄙ふりも小袖変りの春の色　梅市

鳴つくさやらし師走の梅日和　万岳

長閑さや足もと花の筏艸　素因

ものいはぬ梅もものいふ翁かな　朶雲

献上の家しらすまゝの若菜哉　不千

大尾

としの坂登る程よし足並そろ　篁阿

寿る年をまひおくる梅もふ　旦雪

松竹に悪せさるものし古鳥帽子　逸山

鄙にはうしく掛けし懸にも　茶十

としの波女男ふいつゝ身の行方　素園

年もち[illegible]音を立むかし　搏山

のむしのあくる年の暮　無物

[illegible]
賢七人[illegible]
伏[illegible]
[illegible]
千金[illegible]の梅の白
年[illegible]の[illegible]
[illegible]

西[illegible]
楚郷
萩川
甚五
里扇
枇江
蓁々

春柳夢
古城

柳新の夢
ものがたり
上
井蓋

新解て風流の夢の風